

レークピア大津仰木の里の御呂戸川緑地計画について

Oroto River open space planning, Lakepia Otsu (Ohgi New Town)

井上 洋一※※・森 三夫※※※

By Youich Inoue・Mituo Mori

1. はじめに

レークピア大津仰木の里は、住宅・都市整備公団が滋賀県大津市北部丘陵地に区画整理事業により開発した新しい街であり、この街が所在する大津市の湖西地域には母なる湖、琵琶湖と比良・比叡の山並みに代表される水と緑の豊かな自然がある。

近年、市街地の開発が進み古くからの緑や景観が失われていく中で都市緑化の重要性が叫ばれている。

大津市の総合計画基本計画の中においても「水と緑と市民のふれあい」をめざして道路や河川の緑化計画を進め、山の緑と湖辺の自然を河川・緑地軸で結び水と緑でネットワークする「水と緑の回廊づくり」を進めるものとしている。また、昭和 55 年に策定された大津湖南都市計画区域の「緑のマスタープラン」ではその目的の一つとして河川緑地を軸とする「都市緑地網の形成」を挙げており、河川の直接利用可能なオープンスペースや水面そのものを緑地として、周辺の山地と湖岸を連結する機能をもたせることとしている。

これらの計画を背景に御呂川緑地は、住宅・都市整備公団が施行する仰木土地区画整理事業区域内の都市施設の一つとして昭和 63 年 8 月 8 日都市計画決定された。

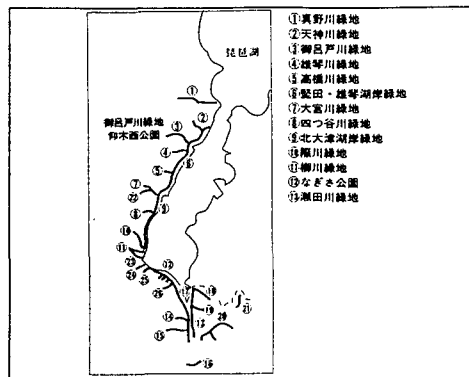


図-1 「緑の回廊」計画

2. レークピア大津仰木の里（仰木地区）の概要

本地区は、住宅・都市整備公団が大津湖南都市計画事業仰木土地区画整理事業として、昭和 56 年から開発を行ってきたものであり、平成 8 年に工事が概成し、換地処分を行った。

大津市の中心部から北方約 10 km、京都市の中心部から北東約 20 km、JR 湖西線で京都へ約 30 分、大阪へ約 1 時間、車では湖西道路で名神高速道路まで約 15 分の堅田丘陵に位置し、地区面積 189ha、計画人口 16,000 人の住宅地を主として一部施設用地を含んだ複合機能都市である。

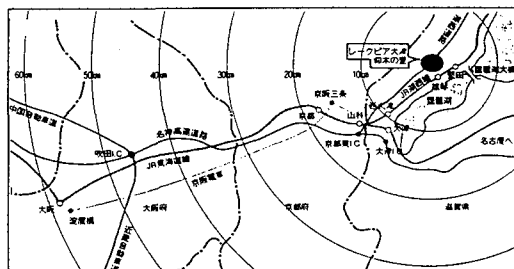


図-2 レークピア大津仰木の里位置図

※ キーワード 景観、公園・緑地、親水計画

※※ 住宅・都市整備公団 関西支社 滋賀開発事務所長

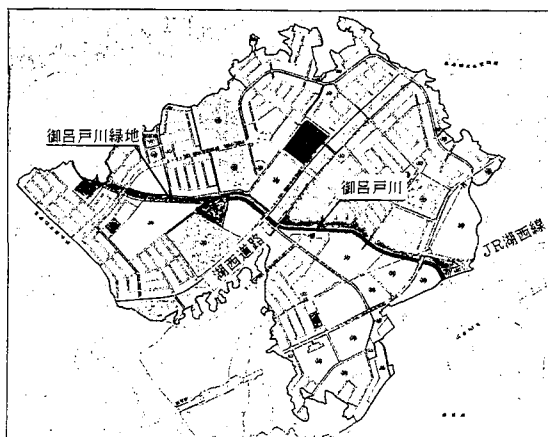
※※※ 住宅・都市整備公団関西支社 都市開発事業部

工事第一課 課長代理

(〒520-0242 大津市本堅田 5-23-23)

TEL 077-573-3345 FAX 077-573-6365)

比良・比叡の山並みを背景に琵琶湖のさざ波を望む美しい景観を生かし、人と山、人と水、人と文化、人と歴史とのふれあいを大切にした湖西の理想郷とするため、御呂戸川・緑地をはじめ街並み、外構、公園、歩道等に街づくりの種々くふうをこらしてきたところである。レークピア大津仰木の里には小学校2校、中学、高校、大学とそれぞれ開校し、現在約7,600人の人々が生活されているが、今後も募集・入居が促進され、快適な都市機能を備えた新しい生活文化都市として、街の熟成が期待されている。



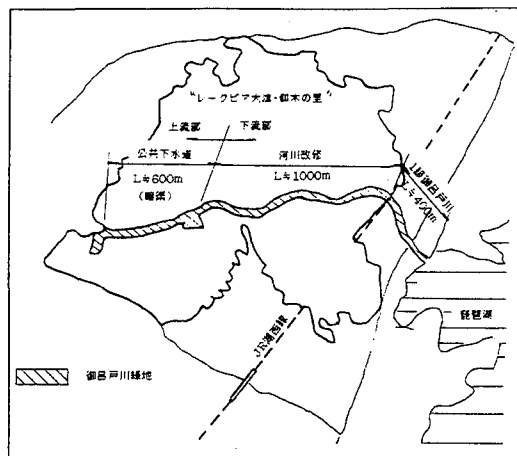
図－3 土地利用計画図

3. 御呂戸川改修計画

御呂戸川は、流域面積約 231ha の普通河川でレークピア大津仰木の里の中央やや南よりを西から東に縦断し、琵琶湖に流入している。

当地区は標高 90m～170m の西から東へ下る起伏に富んだ丘陵地で全体土工量は約 620 万・と予測され、流域の 65%が開発区域に含まれることになる御呂戸川は改修する必要があった。御呂戸川改修計画においては、現況の河床が地区境界付近の上流部で標高 110m、下流部で 88mとなっており、造成計画上河川兩岸に長大法面が生ずることとなる。

御呂戸川を緑地・公園等と一体化し広域の利用を前提にした川沿いの修景を図るため、区域内延長 1,600mのうち、上流部約 600mについて改修計画三案を検討した。



図－4 整備計画区分図

(1)地山河川案

河川構造上は安定するが法面・擁壁が連続するため、緑は法面を修景する程度のものであり、緑道からのアプローチ、近隣公園との一体化等周辺の土地利用との整合性に欠ける。

また河川は単なる放水路でしかなく、人と水とのかわりは望めない。

(2)盛土河川案

下流部に落差を集中させた本案は法面擁壁が小さく、修景施設・周辺土地利用との整合は図れるが、放水路の雰囲気強く残しており、又、盛土上の河川構造物という不安定な要素をもっている。

(3)暗渠案

河川本来の治水上の安全性を確保し、上部は自由に修景施設も配置でき上流から修景用水を取水することにより多様な水緑空間が用意でき、緑道からのアプローチ、周辺施設との一体化も容易にできる。

以上の各案について大津市関係部局との協議を重ねた結果、暗渠案を採用することとなった。

具体的には、上流部 600mは地山部にパイパス水路としてボックスカルバートを設けて公共下水道施設とし、洪水時の増水分を処理する。通常は盛土上に設けられた修景河川に水を流すという二重構造で問題の解決を図った。

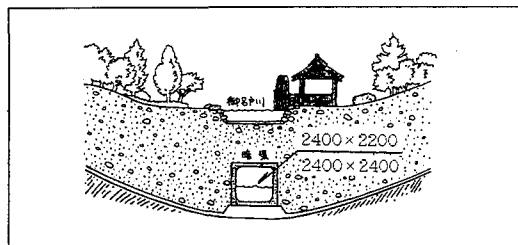


图-5 整備断面图 (公共下水道)

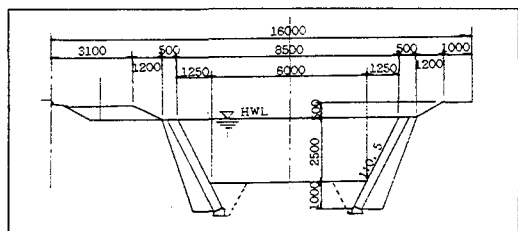


図-6 整備断面図 (河川改修)

なお、下流部 1000mについては既存の建築物、橋梁等の数々の制約的条件があるため準用河川の指定を受け、現況の地山上を流れる掘込河川として改修した。

4. 御呂戸川緑地計画

(1) 計画の概要

御呂戸川緑地は比叡・仰木の山麓と御呂戸川の河口部が位置する堅田・雄琴湖岸緑地を結ぶ「水と緑の回廊」として御呂戸川の治水・利水の機能とともに水辺の修景並びに周辺の自然と調和した緑の空間を確保する必要があるため、修景施設歩道の配置等考慮し、幅員約 25m 延長約 1,600m、面積約 7.6ha で御呂戸川をとり込んだ区域とした。

これらを整備内容から分類すると、上流部約 600m は暗渠区間であり、又、仰木西公園（約 5ha）と接しており、面的整備が可能なゾーンである。

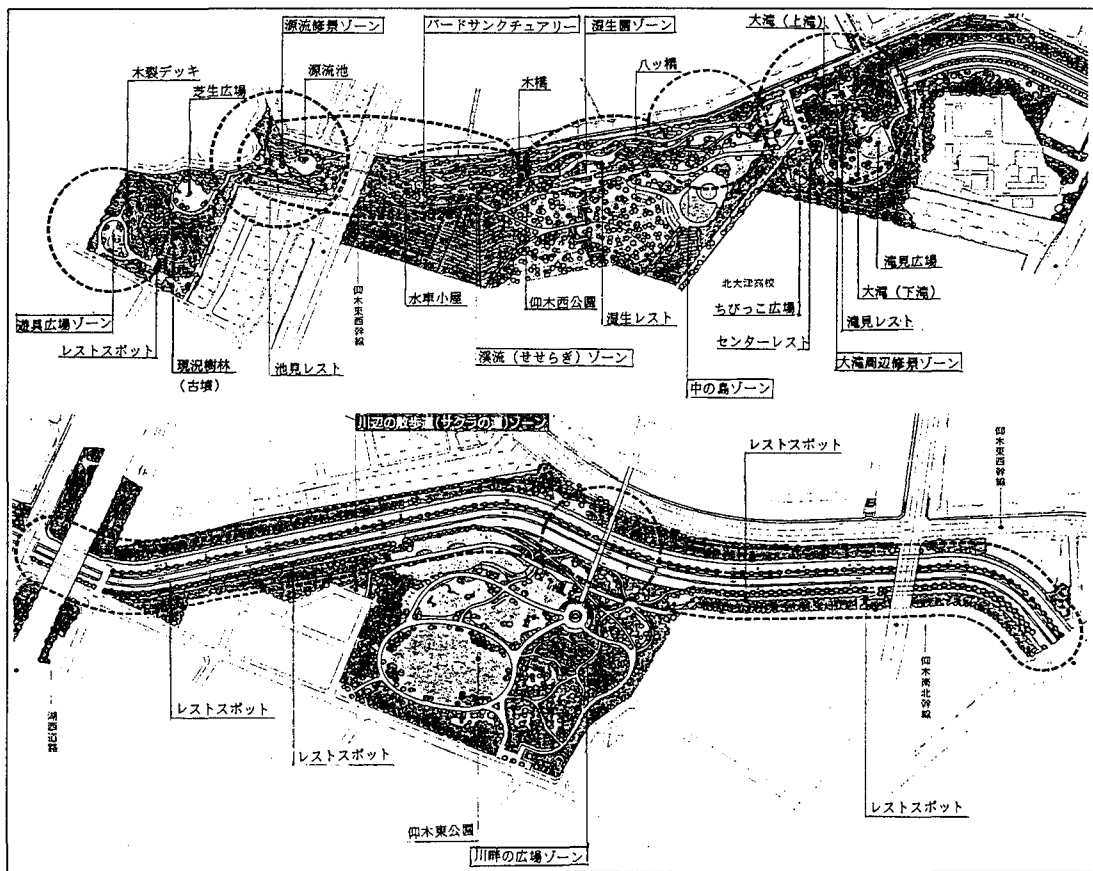


図-7 御呂戸川緑地計画図

下流部約 1,000m は河川改修工事が実施され、ほとんどが擁壁と法面に囲まれており、大きい場の展開は無理である。このためトリムコース・散策等の線的使用の場とするが唯一広がりのとれる仰木東公園(3.6ha)と隣接する場所を魅力ある休息空間とした。

(2) ゾーン計画

(a) 遊具広場ゾーン

山の中古墳(7世紀頃)の現況林を遊具広場の背景の緑として空間構成を図り、遊具は木製を主体にし、源流修景ゾーンへ続く緑の核として位置づけた。

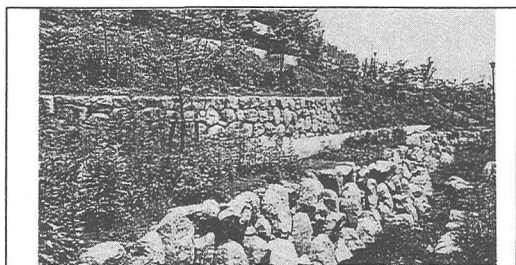


図-9 源流修景ゾーン

(d) 湿生園ゾーン

広がりのある空間構成とし、なだらかに続く桜の斜面をバックに、花菖蒲を集めた湿生園をつくり、中に八橋を渡し、又、水辺には観賞用のデッキを設けるとともに園路沿いには四季折々の花を植え、花の美しい草本類を主体とする湿生園空間とした。



図-11 大滝周辺修景ゾーン

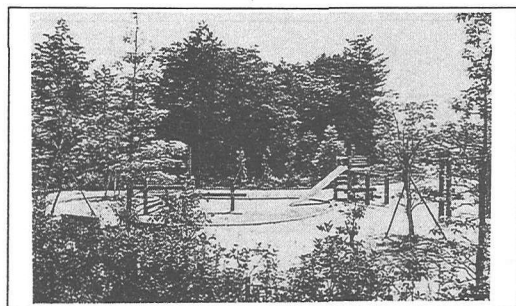


図-8 遊具広場ゾーン

(b) 源流修景ゾーン

区域外の水が修景へと移る導入部である。大きな自然石と緑で川の源流部の雰囲気を出し、四季をかんじられる自然度の高い風景を作り、水と緑の空間の演出を図ることとした。

(c) 溪流(せせらぎ)ゾーン

源流部から続く溪流ゾーンとして位置付け、自然石を多く使い清らかなせせらぎのイメージを表わす。

また、このゾーンを中心とするエリアを野鳥誘致を図るバードサンクチュアリとし、野鳥への安全で快適な立寄り場所を提供する。具体的には野鳥が好んで食べる実のなる木・砂・水遊びができる場所などを積極的に取り入れた。

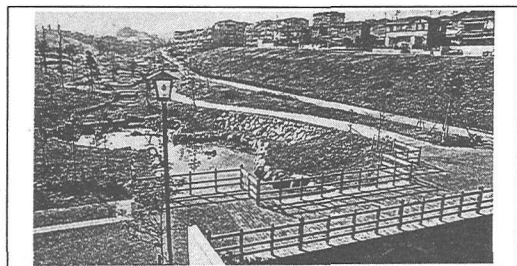


図-10 湿生園ゾーン

(e) 大滝周辺修景ゾーン

上滝、下滝の2つの滝を中心とする空間構成とし、滝見広場を設けた。滝つぼは浅く広くとって水遊びが出来る場とする。

また、安全性と景観を配慮し滝の周辺には木の柵を設けてその内側にトゲのある植物を植え滝口に近づけないよう配慮した。

上滝は水を3段に分け落としているが、流れを美しく表現するため実際に水を流し、流れ方を見ながら石積を修正していった。

(f)川辺の散歩道（サクラの道）ゾーン

河川改修済の約 1,000m については広がりがなく、緑地も法面となるため、川辺の散策、ジョギングに対応する散歩道を配置し、道沿いに桜を植えてプロムナードの雰囲気表現した。桜は染井吉野を中心に山桜、しだれ桜を配置し、散歩道は、ジョギングを考慮して茶色の自然色アスファルト舗装をおこない土の感覚に近づけている。

(3)池・流れの計画

流れのイメージは流速 0.1m/s から 0.5m/s の範囲が落ちついた流れと感じられ、又、流れ巾については、 $1\text{m} \sim 5\text{m}$ の範囲が小川のイメージになると言われている。これらを参考に源流ゾーンでは、小滝 ($H=1.5\text{m}$) と急流で構成し、巾は 2m 前後、流れの縦断勾配を $1/60$ 程度とした。

溪流ゾーンは流れ巾 2m 前後 勾配 $1/70$ 程度として、溪流やせせらぎのイメージとし、続く湿生園ゾーンについては勾配 $1/600$ 程度とし、ゆったりとした水の流れを2本の流れに分流させ、デッキからの景観を考慮した豊かな水面の広がりを演出し、流れ巾は $2 \sim 3\text{m}$ を標準に $5 \sim 6\text{m}$ まで変化をつけた。

大滝周辺修景ゾーンは大滝の落水厚を 5cm 程度とし、滝つぼの水深は安全を考えて 30cm 内外とした。

下流部の川辺の散歩道ゾーンは概定の計画どおりブロック積護岸 ($1:0.5$) の2面張掘込河川として改修した。

5. おわりに

本緑地の西側上流部は平成3年に完成し地域の人々の憩いの場となっているが、御呂戸川は流域面積も小さく、流量が一定しないため、経済的な方法での水量の確保が望まれるところである。

本計画は大津市関係部局の多大な御協力により実現できたものであり、施設の引継移管も終えたところであるが、美観維持・草木野鳥の保護等については行政の努力だけでは限界がある。地域ぐるみでの管理体制ができ、いつまでも美しい自然を保ち、自然とのふれあいの場として地域の皆様に親しまれるよう願うものである。